

学校 教育 目標	「自分大好き 友だち大好き 共に学ぶ子 実践する子」				
	○自分の考えをしっかりとち、困難なことにもあきらめず、自ら進んで学習する子を育てます。(知) ○人に対して優しく思いやりをもって行動し、人の心の痛みのわかる子を育てます。(徳) ○基本的な生活習慣を身につけ、健康の保持増進を図ると共に、命あるものを大切にしようとする子を育てます。(体) ○地域の環境や人を大切に、進んで人のためになる行動の取れる子を育てます。(公) ○いろいろな人とのコミュニケーションを大切に、よりよい生活について考える子を育てます。(開)				
学校 概要	創立 18 周年	学校長 忽滑谷 隆	副校長 仲川由佳理	2 学期制	一般学級： 24 個別支援学級： 5
	児童生徒数： 814 人		主な関係校： 中山中学校・中山小学校・上山小学校		

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
○協働的に課題を解決する力 ○共生社会を形成しようとする姿勢 ○主体的に参画する態度	中山中学校 中山小学校 上山小学校	○主体性をもって課題を解決する子ども ○豊かなコミュニケーション力をもつ子ども ○「まち」を大切に子ども ----- ・教育活動の中に人との豊かなかかわりを積極的に入れ込んでいく。 ・挨拶運動や花いっぱい活動、ボランティア清掃などへの児童の参加を一層進める。 ・授業研究会への参加を他校へも呼びかけ、本校の児童の様子を他校と共有していく。 ・地域行事への積極的な参加を勧める。

中期 取組 目標	○子ども一人ひとりに向き合い、「ひと」や「まち」との関わりを大切に、活力と魅力あふれる学校づくりを進めます。 ・子ども同士の関わり合いと認め合いを育み、新学習指導要領に沿った学習活動を展開します。 ・特別支援教育の視点を大切に、問題解決学習型の授業づくりに取り組み、進んで問題を解決していく子供を育てます。 ・家庭・地域・関係機関との連携をより一層強め、子どもの心に自尊感情・自己有用感を高めるように取り組んでいきます。 ・楽しみながら学び、健康・体力の向上に寄与する学習の充実を図ります。 ・全教職員が互いに学びあい、啓発し合って自らの力を磨いていく学校づくりを進めます。
----------------	--

重点取組分野	具体的取組
生きてはたらく知	①学年での教材研究を充実させ、基礎・基本をしっかりと身に付けるように学年で共通した指導方法で指導し、家庭学習も共通理解を図り取り組む。②ねらいをはっきりとさせ、言語活動をしっかりと位置づけ、自分の考えを表現・交流できる問題解決的な授業を常に意識して展開する。
担当 教育課程・研究・研修委員会	
地域連携	①各学年における生活科・総合的な学習の時間の展開から、昔遊び、花いっぱい運動、自然観察、田の学習など、地域の方たちに教えていただく場を設定し、豊かな人との関わりの中で思いやりの心を育てる。②児童の参加奨励を行い、地域行事に限らず、地域の方たちとの交流や連携について検討する。
担当 教育課程・研究・研修委員会 生活・総合部	
自分づくり教育 (キャリア教育)	①縦割りや異学年のふれあい活動を意図的・計画的に行い、リーダーシップやメンバーシップの意識を育てる。②中・高学年の総合的な学習などにおいて地域との連携を深めながら、キャリア教育を意識した学習活動を設定し、その体系化を図る。
担当 教育課程・研究・研修委員会 生活・総合部	
豊かな心	①自らあいさつができるよう子ども達の意識の向上を図り、実際に声を出してあいさつができるようにしていく。豊かな人との関わりの中で思いやりの心を育てる。②年1回道徳の授業公開を全学級で行うとともに、授業を通して、自ら課題を立て自分のあり方を振り返り、友だちを認める心を育成する。
担当 児童活動委員会 児童指導・特別支援教育委員会	
児童生徒指導	①専任教諭を中心に、児童の実態をことあるごと日常的に共有化し、全職員で対応ができるようにする。②森小スタンダードを確実に共通理解し、全職員が同じ方向性で児童と関わる。あいさつだけゾーンの日常化を図る。社会的マナーやネット利用に関する出前授業等を実施し、子どもたちの規範意識を高める。
担当 児童指導・特別支援教育委員会	
特別支援教育	①児童支援専任、特別支援教育コーディネーター等を中心として特別支援教育の充実に努め、ユニバーサルデザイン化した誰もが分かりやすい授業の展開を工夫する。②子どもの実態に基づいて個別の指導計画・支援計画の充実を図り、計画的に「身につけたい力」を付けられるような指導を工夫する。
担当 児童指導・特別支援教育委員会	
健やかな体	①体力向上のために、1校1実践の長縄跳び、ラジオ体操の計画的な実践を継続する。②食や体に関する関心を高めるために、学校保健委員会や給食週間で、保健や食育の指導に取り組む。全校の取り組みが日常化するように努める。
担当 児童活動委員会・体育部 保健安全給食委員会	
	a23
担当	
いじめへの対応	①いじめ防止研修を重ね、学年研や4委員会で情報交換する場を設け、全児童を全職員で見守る意識を高める。②いじめの早期発見に努め、迅速な対応に努める。「子どもの社会的スキル横浜プログラム」を活用する。朝会・集会・授業の中で指導することでいじめをしない・させない・ゆるさない風土を心の中に育てる。
担当 児童指導・特別支援教育委員会	
人材育成・ 組織運営 (働き方改革)	①経験の浅い教員が経験豊かな教員のよさを引き継いでいける組織運営を工夫し、MTMを中心に相互育成力や連携力を高め、ミドルリーダー等を育成する。②学級の問題を学年研や主幹会で共有し、担任一人が問題を抱えることのないよう支援・連携に努める。学年研の充実を図る。③グループウェア等を活用し情報の共有化を図り、事務の簡略化、効率化を積極的に推進する。
担当 主幹会・MTM	